

鎌倉市エネルギー基本計画及び実施計画見直し案に対する市民意見及び市の考え方

ページ	基本計画、 実施計画の別	意見の概要	市の考え方
2	基本計画	私たちの暮らしは既に「石炭」を使用しなくなっているため、1(1)の1行目の「高度経済成長期以降、私たちの暮らしは石油や石炭など多くの化石燃料を使用・・・」は、「高度経済成長期以降、私たちの暮らしは石油やガスなど多くの化石燃料を使用・・・」と記載する。	資源エネルギー庁が公表している総合エネルギー統計の日本の一次エネルギー消費を見ても、石炭は現在でも使用をされています。このため石炭は外さずに、そのままの記載とします。
2	基本計画	世界各地で異常気象など多くの問題が発生しているのは、「気候変動」問題として扱われているので、1(2)の5行目の「・・・世界各地で異常気象など多くの問題を引き起こしているため、・・・」は、「・・・世界各地で異常気象など多くの気候変動問題を引き起こしているため、・・・」と追記する。	気候変動という言葉は、国際的に標準的に使用されていることは認識しております。この文中の「異常気象など多くの問題」の中には、気候変動により引き起こされる異常気象、生態系への問題、健康被害、食糧問題など、を含んでいると考えています。この中でも、言葉の持つイメージ等を考慮した結果、異常気象という言葉を使用しています。
6	基本計画	2030年度にはまだ核エネルギーに頼るようになっていますが、平和都市宣言の名に恥じないように非核エネルギーにシフトしていくことを「(6)市の取組み状況」の中でお示し願いたい。	市が平成24年に議員提案により制定した「鎌倉市省エネルギーの推進及び再生可能エネルギー導入の促進に関する条例」、また国が平成27年に策定した「長期エネルギー需給見通し（エネルギーミックス）」でも、原子力発電への依存度を低減していくことが掲げられています。市としても再生可能エネルギー等の環境負荷の低いエネルギーの普及を進めるとともに、そういった環境負荷の低いエネルギーを消費者である市民の方々が選択できるような啓発活動を、具体的な施策の中で今後推進してまいります。
28	基本計画	統計データの取り扱い、表示が不適切なため、「表2-2 神奈川県と鎌倉市における住宅の建築時期」の表の総数と合計値を合わせ、10年毎の表示に統一した方が見やすい。	総務省の年住宅・土地統計調査のデータをそのまま引用しているため、数字等は加工せず、そのまま掲載しております。
34	基本計画	化石エネルギーから非化石エネルギーへのエネルギー・燃料転換を考慮する必要がある為、「図2-17 部門別年間ガス消費量の推移」のグラフは電力、ガス、灯油・軽油（ガソリン）毎のエネルギー使用量を年次推移で表示する。	エネルギーにおいて代表的な電力・ガスについては表2-3「エネルギー消費量の内訳」で年次の推移は掲載していますが、灯油、軽油については、市が市内での消費量を把握する事が難しいため、そのままとさせていただきます。

鎌倉市エネルギー基本計画及び実施計画見直し案に対する市民意見及び市の考え方

ページ	基本計画、 実施計画の別	意見の概要	市の考え方
39 ・ 56 ・ 83	基本計画	<p>39ページの ア. 「防災」をキーワードとした施策を重点的に推進であげている、自立分散型電源の配備を伴う地域環境整備・低炭素型のまちづくりなどは、今後の鎌倉市のエネルギー政策の主軸のひとつになることについて賛同いたします。分散型電源(分散型エネルギーシステム)を設置し、常用することにより「低炭素化を推進する」ことが可能であり、環境性、経済性にも優れたシステムを構築することができます。</p> <p>鎌倉市地域防災計画(地震災害対策編)との整合を図りつつ、地域防災力を高めるエネルギー施策について、防災対策の本質的な要素の一つである「エネルギーの自立化・多様化」を図るため、停電対応型の「ガスコージェネレーションシステム」の導入について検討することを提案いたします。</p> <p>56ページの ウ. 再生可能エネルギーの課題に、貴市でも認識されている再生可能エネルギーの課題への対策として、再生可能エネルギーを補完する「ガスコージェネレーションシステムや燃料電池」の導入等の対策が必要と追記することを提案します。なお、神奈川県地球温暖化対策計画には「再生可能エネルギー等の分散型電源の導入促進」が盛り込まれており、鎌倉市のエネルギー基本計画及び実施計画においても必要不可欠なものと考えます。</p> <p>83ページの<基本方針及び取組みの必要性>の11行目の再生可能エネルギーと同様、環境に優しい分散型エネルギーとして期待される「次世代エネルギー機器(燃料電池等)・ガスコージェネレーションシステム等」についてもその技術動向等を踏まえ、普及を促進していく必要があります。分散型エネルギーとして「ガスコージェネレーションシステム」を追記することを提案いたします。</p>	<p>コージェネレーションシステムやそれを利用したエネルギーの面的利用について、コラムを用いて説明します。</p>
53	基本計画	<p>『使用量・発電量などを「見える化」することで市民の意識を高めていき、減らす努力』とありますので、HEMS機器や感震ブレーカなどの導入のみにでも補助することには意義があると考えます。</p>	<p>今後、HEMSのみの設置への補助を検討します。 また、感震ブレーカーの補助に関するご意見は、関係課へ情報提供します。</p>
63	基本計画	<p>ウ 太陽熱利用 ①で「太陽熱とは、住宅の屋根などに」とありますが、壁面へ太陽電池パネルを設置することは可能であり、太陽光追尾型のパネルもあります。</p>	<p>ソーラーパネル(太陽電池パネル)については、壁面、池や畑の上などの設置場所、太陽光追尾型といった機能等があることは市でも把握しております。一方、太陽熱についても壁面等に設置できることは把握をしています。そのような屋根以外の場所への設置も含め、「住宅の屋根など」と記載しております。</p>
67	基本計画	<p>4章. 2 省エネルギー. (1)には「鎌倉市における省エネルギーの可能性」について記載されていない為、タイトルを「鎌倉市における省エネルギーの可能性」から「鎌倉市における省エネルギーの課題」と記載した方が適切である。</p>	<p>表現を変更いたしました。</p>
78	基本計画	<p>2 (1) の7行目「エネルギーをめぐる社会・経済的、技術的動向の変化は激しく、・・・」では表現が大袈裟であるため、「エネルギーをめぐる社会・経済的、技術的動向の変化は著しい」と穏やかな表現にする。</p>	<p>「動きが激しい」や「激動」といった表現があり、この文章では動向の変化についてを書いているため、「激しい」と表現しております。</p>

鎌倉市エネルギー基本計画及び実施計画見直し案に対する市民意見及び市の考え方

ページ	基本計画、実施計画の別	意見の概要	市の考え方
78	基本計画	<p>「省エネルギーの推進」については「年間電力消費量の削減量」を、「再生可能エネルギーの導入促進」については「年間電力消費量に対し再生可能エネルギー等により創生される発電量」を目標に掲げます。</p> <p>後に以下の内容を追記</p> <p>それらによって、「二酸化炭素の削減量」の排出を削減します。</p> <p>尚、年間電力消費量には、再生可能エネルギー等により創出された電力量は含みません。また、再生可能エネルギー等により創生される発電量の中で、余剰電力を電力会社などに売電する分については分母に含みません。</p> <p>(2(1)の26行目に、「省エネルギーは電力だけでなく、ガスや燃料油など、他のエネルギー源も含めて取り組んでいく必要があります」と記載されているとおり、地球温暖化防止および低炭素社会をめざす目標となる指標として、「二酸化炭素の削減量」についても併記する。尚、「再生可能エネルギー等により創生される発電量の中で、余剰電力を電力会社などに売電する分については含まない」と正しく補足的に追記しておく)</p> <p>さらに、目標の修正を提案します。</p> <p>目標②市内の年間電力消費量に対する再生可能エネルギー等による発電量の割合 平成32(2020)年度に、5% 平成42(2030)年度に、10%とします。それらによって、「二酸化炭素の削減量」の排出を10%削減します。</p>	<p>二酸化炭素の排出量は、平成28年に策定した「鎌倉市地球温暖化対策地域実行計画」の中で取り扱っております。本計画では、あくまでもエネルギーに焦点を当てるものですので、目標についてはそのままとさせていただきます。</p> <p>また、再生可能エネルギー等による発電量には、売電、自家消費問わず、市内で発電された再生可能エネルギー等の発電量を全てを計上します。</p> <p>年間消費電力量は、市の外部からの買っている電力がほとんどですが、この買った電力に含まれる再生可能エネルギー等の発電量は再生可能エネルギー等による発電量には含めない方針です。</p>
79	基本計画	<p>節電の例を、効果のあるものから並び替える。</p>	<p>目標①に係る取組例、目標②に係る取組例で整理をし、並び替えて記載をします。</p>
80	基本計画	<p>「鎌倉市エネルギー基本計画及び実施計画改訂案」にて定められた4つの基本方針(①省エネルギーの推進、②効率的なエネルギー利用の促進、③再生可能エネルギー等の導入、④低炭素まちづくりの推進)について賛同いたします。</p>	<p>ご賛同、ありがとうございます。4つの基本方針に基づいた施策を着実に推進し、目標を達成してまいります。</p>
82 ・ 84	基本計画	<p>高齢化社会となりつつある中で、省エネや太陽光発電などの再生可能エネルギーを設置するための多額のお金を払う設備投資には、費用回収が困難と考えることから消極的になる傾向がある。</p> <p>しかし、高齢化と共に健康面のリスクが重要となるため、健康づくりと環境対策は鎌倉市で複合的に取り組む政策課題であると考えます。</p>	<p>特に住宅に関しては、省エネ化は健康面に対しても好影響を与えるとは認識しています。効果的な情報提供や支援を図るなかで、導入しやすい環境の整備を検討してまいります。</p>
84	基本計画	<p>再生エネについては、資金・採算を考えチャレンジして下さい。予想通りの効果が上がらない可能性もありますが、失敗を恐れずチャレンジして下さい。24時間コンビニや駅ビル、雑居ビル、スーパー等電力等を多く使う施設にはLEDはもちろん、省エネ機器、再生エネ機器の設置を場合によっては条例で義務付けて下さい。</p>	<p>省エネ機器、再エネ設備の導入に対して、どこまで費用対効果を重視するのかは、今後の課題だと考えています。</p> <p>なお、鎌倉市開発事業における手続及び基準等に関する条例に基づき、一定規模以上の開発について、共同住宅に太陽光発電設備等の設置がなされることがあります。今後、この施策の拡充について、検討してまいります。</p>

鎌倉市エネルギー基本計画及び実施計画見直し案に対する市民意見及び市の考え方

ページ	基本計画、実施計画の別	意見の概要	市の考え方
88	実施計画	目標、基本方針、基本施策、は概ね良いと思いますので、目標を実現するためにどう進めるかだと思います。ハード面ではエコカー、エコ家電等技術進歩により省エネはすすむと思いますが、問題はソフト面です。人口減少が予想されるなかで、若い世代の負担の軽減になるよう、いかにシンプルでスマートな市にするかが肝心だと思います。	ソフト面からの省エネルギーを推進するため、市の省エネ活動の徹底と省エネ方策等情報発信を行うとともに、市民や事業者がエネルギー問題に関心を高め、効果的な省エネ行動に取り組むことができるよう、様々な対策を講じてまいります。
88	実施計画	公共施設（拠点校選定案でもありましたが）を「効率」の観点から集約リニューアルすることが大きな省エネにつながります。市役所の中でも人員の配置を含め「効率」の観点から、見直し再編成し、スリム化することが大事だと思います。	公共施設の新設や改修等に際しては、計画的にエネルギー効率の良い設備を設置するなど、率先導入に努めることとしています。なお、市役所のスリム化についてのご意見は、担当課に情報提供を行います。
89	実施計画	電気自動車は、製造過程で通常の自動車より原油由来のエネルギーを多く使い、発電所の多くも原油由来のエネルギーを使います。製造から廃車までの環境負荷が、走行距離や使用頻度によって変化し必ずしも低炭素にはつながらない旨を明記するべきだと思います。	電気自動車に限らず、ご意見いただいたような、製造から、使用、廃棄にいたるまでの間に生じる環境負荷を総合的に評価して商品を選択するような視点が必要だと考えています。このような観点に関する記載を追記します。
89	実施計画	HEMS機器の購入のみでは市の補助金が得られず、この機器と併せて電気自動車などを購入することができる富裕層は市の補助金を得ることができます。これでは税の公平性を担保できないと考えます。HEMS機器や感震ブレーカのみ導入にも補助をすることを検討願います。	今後、HEMSのみの設置への補助を検討します。また、感震ブレーカーの補助に関するご意見は、関係課へ情報提供します。
91	実施計画	新ごみ焼却施設を建設する際には、バイオマス発電が必須であり、エネルギーの地産地消と共に、分別やリサイクルなどの循環型社会の形成とも合わせた横断的な施策を進めていくべきである。	バイオマス資源最大活用として、今後新規に建設するごみ焼却施設の検討において、発電等未利用エネルギー活用の検討を行っています。
94	実施計画	鎌倉市の特性を考慮するとグリーンカーテンなどの緑化を通じて省エネを普及していくことが有効な施策である。	緑のカーテン普及事業として、緑のカーテン栽培講座を春に実施しているところです。今後も市民や事業者がエネルギー問題に関心を高め、効果的な省エネ行動に取り組むことができるよう、様々な対策を講じてまいります。
95	実施計画	鎌倉市は面積規模から、自転車での移動に適した街と考えます。一部坂道はありますが、電動アシスト自転車も普及していますので、近年外国や国内の他地域でも普及しつつある自転車シェアリング・システムを積極的に導入してください。	自転車利用を積極的に促進するためには、それを踏まえた道路整備などの他の問題を解消する必要があります。
95	実施計画	電気自動車および電動アシスト自転車を更に普及拡大するには充電施設を無料で使用できるようなインフラ整備が重要である。	鎌倉市役所本庁舎に急速充電器を設置し、市民・事業者へ無料開放を実施しているところです。今後、無料で利用できる設備を整備するのか、有料の設備を整備するのかは、社会情勢を勘案して検討してまいります。
95	実施計画	ロードプライシングやパーク＆ライドなどの交通施策は、深沢地区の新規開発地区と鎌倉駅周辺の旧市街地区との間を結ぶ幹線を整備する際にぜひ実現してほしい。	頂いたご意見は、担当課に情報提供を行います。

鎌倉市エネルギー基本計画及び実施計画見直し案に対する市民意見及び市の考え方

ページ	基本計画、 実施計画の別	意見の概要	市の考え方
96	実施計画	各家庭にHEMSを点的に設置させるだけでなく、深沢地区の都市計画・開発にスマートエネルギーのモデル地域として面的な導入が必要である。	大規模な開発では必要だと認識しています。 コージェネレーションシステムについて、コラム欄に記載するとともに、頂いたご意見については、担当課に情報提供を行います。
96	実施計画	基本施策イの⑨深沢地域整備、⑩大船駅東口駅前整備において「エネルギーの面的利用を視野に入れたスマートシティの形成」を追記することを提案いたします。本庁舎の移転先候補としても挙げられている深沢地区は、66ページにも記載がある通り豊富な地下水流があり、更に周辺には信頼性の高い中圧ガス導管が整備されていることから、鎌倉市のスマートシティ形成に適した地区であると言えます。本庁舎整備方針を踏まえながら、深沢地区をスマートシティの候補地として議論を進めていくことを提案いたします。	深沢地域整備事業及び大船駅東口駅前整備事業においては、環境負荷の低減にむけた様々な方法を関係課へ情報提供していきます。
97	実施計画	環境のフェスティバルなどのイベントを開催し、市民への普及啓発活動を期待したい。	エネルギー問題に関心を高め、効果的な省エネ行動に取り組むことができるような講座やイベントの開催について、検討してまいります。
97	実施計画	エネルギー・環境という目に見えないものを、未来を担う子供たちに分かりやすく伝えるために、「学校出張授業等を実施している市内事業者」の協力を仰ぐことを提案いたします。	P109の基本施策イ「次代を担い未来を生きる子供たちが、将来へ向けて自らが判断して主体的に行動し低炭素社会を築いていくことができるよう、エネルギー環境教育を推進します。」の文言を、「次代を担い未来を生きる子供たちが、将来へ向けて自らが判断して主体的に行動し低炭素社会を築いていくことができるよう、（市民や事業者と連携しながら）エネルギー環境教育を推進します。」へ変更しました。
97	実施計画	高齢化が進んだ個別住宅のハード面での省エネ化は難しいというのが実情ですので、街中の特定商店街など、省エネのモデル地区を作ったらいかがでしょうか。	鎌倉市では、地球環境への負荷の軽減に取り組む商店街を、エコ商店街として認定しています。その他にも、本実施計画の各基本方針においても、普及啓発を進めるべき施策と捉えています。方法については、今後様々な手法を検討し、実施していく必要があると考えています。
97他	実施計画	自治会、町内会別や商店街対抗で消費電力量削減率を競うなど、役所と市民が一緒になってゲーム感覚で競うような、市民を巻き込んだ「省エネ」運動を考えたら効果も上がり良いと思います。議員皆さんには予算がないと嘆くより「予算を生み出す」能力が問われていると言って下さい。	本実施計画の各基本方針においても、普及啓発を進めるべき施策と捉えています。その方法については、今後様々な手法を検討し、実施していく必要があると考えています。
98	実施計画	基本施策ア、イの実施事業に、「中圧ガス導管を活かした防災機能強化」を追記することを提案いたします。 避難所等災害拠点及び災害弱者施設を整備する際に周辺のガス導管網を確認し、信頼性の高い中圧ガス導管を活用することをお勧めします。中圧ガス導管を活用し、停電対応機能を有したガスコージェネレーションシステムやガスヒートポンプシステムを導入することで、商用電力停電時においても避難所等として必要な重要負荷への電力及び空調熱源の確保が可能となります。また、常時の使用においても経済性・環境性に優れており、省エネルギーと省コストを図ることができます。	コージェネレーションシステムについて、コラムを用いて説明します また、いただいた意見について関係課へ情報提供いたします。

鎌倉市エネルギー基本計画及び実施計画見直し案に対する市民意見及び市の考え方

ページ	基本計画、 実施計画の別	意見の概要	市の考え方
その他		<p>目玉政策が不足しているように感じられますので、例えば以下のような重点施策(案)を打ち出すことを提案します。また、重点政策(案)を検討するために市民からの適切な選抜者で構成する特別委員会でも自由闊達に議論して目玉施策を立案することを提案します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭用・企業用燃料電池を分散型自家発電装置として普及させるなどと風力発電を否定的に記述されていますが、風車型の大型発電装置ではなく中・低速でも発電効率の比較的高いダリウス型等の家庭用小型風力発電機を普及させて電力の地産地消を図る。 ・光触媒による燃料電池用水素生産または人工光合成によるメタンガス生産（二酸化炭素吸収）等の将来技術を大学などと共同で研究開発する。 ・これらの重点政策(案)を検討するために市民からの適切な選抜者で構成する特別委員会でも自由闊達に議論して目玉施策を立案することを提案します。 	<p>鎌倉市エネルギー基本計画及び実施計画の具体的施策の中から、特に重点的に取り組むべきものを、庁内組織であるエネルギー施策推進委員会において選定し、リーディングプロジェクトとして推進します。</p> <p>また、地域エネルギーのあり方を見極めるために、行政に限らず市民、事業者など多くの関係者と対話するための環境を整備していくことが必要だと考えており、この取組の実施について検討してまいります。</p>
その他		<p>自宅で実施した省エネ対策は、深夜電力利用機器を導入し、屋根に設置したソーラーパネルと連動しました。ルームエアコンの設置を7部屋に対し1台のみとし、夏場は扇風機などを活用したり、冬場は石油ストーブや、FF式のガス暖房器を利用していました。</p> <p>新興住宅地に居住して40数年、小生が所属する住宅地の600数十戸のみなさまの高齢化が進んでいます。当然のことながら、年金生活者が中心で、家計を任されている主婦のみなさまには、節約志向が徹底しており、エネルギーの消費は、最小限に止めています。一方で、省エネ機器の導入は進んでいませんが、夏場の緑のカーテンの活用は居住している住宅地では、常識です。</p> <p>ボランティアをやっている関係で、夜に防犯パトロールをほぼ連日やっていますが、街灯のLED化は、大変評価しています。自宅の照明機器をLED化することは、コストがかかるので、みなさんしり込みをしていますが、ぽつぽつある新築の住宅には、外観だけを見ても、省エネ化が進んでいます。</p>	<p>日常生活の中で、身近なことから省エネに繋げることは、非常に重要だと考えております。</p> <p>多くの市民の方々に、このような習慣を身につけていただけるように、普及啓発に努めてまいります。</p>
その他		<p>専門的な用語について、市民の方の理解を深めるために用語の説明を掲載することを提案いたします。</p> <p>例> 低炭素社会、分散型電源、家庭用燃料電池、再生可能エネルギー等</p>	<p>ご意見ありがとうございます。</p> <p>巻末に記載します。</p>
その他		<p>経済産業省が「過去の原発事故の賠償費用が積み立て不足だった」として「過去分」と称する費用を国民に負担する方針を固めたように仄聞しています。このような政府による国民への「不当請求」であるような政策に対しこの不当請求相当分を供託金などで預け入れるなどして沖縄県のようにあらゆる手段を取って対抗するように鎌倉市長が市民の先頭に立っていただきたい。</p>	<p>本計画案において取り扱える意見ではございませんが、ご意見の1つとして承ります。</p>